

1年美術科学習の手引き

【教科の目標】ものを見つめる目、何かを感じる心、思いを表現する。

中学生になって様々なことが変わります。図画工作も美術になります。ここでは専門的な制作・鑑賞活動を行います。皆さんは主に絵画・彫刻・デザイン・鑑賞の分野に取り組みます。

これまで慣れ親しんだ創造の世界からさらに一步踏み出して、たくさんの表現活動を体験してください。そしてその中から美しいもの、おもしろいもの、すばらしいものを発見してってください。

1. 授業への取り組み方〔約束〕

①授業に出る。

実技教科ですから、授業に出て学習や制作に取り組むことが大切です。出席率は評価に反映されます。

②用意を必ず持ってくる。

教科書・クロッキー帳・新聞紙1枚

そのほか特別な用意はそのつど連絡します。すべての持ち物には名前をはっきりと書いて下さい。

授業の服装は体操着・ジャージで受けてください。

③時間を守る。

特別教室で制作するので時間に遅れずに移動してください。休み時間は制作の準備をして待てるようにしましょう。

④教室での約束や用具を使用する時の約束を守る。

様々な器具を使って表現する美術では、必ず守ってもらいたい約束があります。まず、用意を持ってこなければ制作はできません。用意を持ってこなかったら、授業の始まる前に報告してください。

そのつど用具の使い方を説明しますが、安全のための約束は必ず守ってください。

2. 制作に当たって・よい作品を作るには〔家庭学習について〕

ふだんの生活から美しいものや身近なものよさに気付き味わう姿勢をもちましょう。自分が感じたことやそこから考えたことを大切にしていきましょう。美術は作品を通して人と出会う時間でもあります。仲間の作品よさに気付き、認め合い吸収しましょう。

前期は隔週で2時間ありますが基本的には週に一度の教科です。見直しをもって計画的に制作しましょう。もし欠席したときは、進んだ分の確認をして自分で調整しましょう。

3. 評価の観点と評価の方法について

美術科の各学年の年間指導計画における評価規準に基づいて、3つの観点【(知識・技能)(思考力、判断力、表現力等)(主体的に学習に取り組む態度)】を次のような場面や方法で評価し、それに基づいて総合的な評定〔通知票につく5段階〕を算出しています。

【評価の観点の趣旨】

① 知識・技能

- ・形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解している。
- ・造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。
- ・材料や用具の活かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表わしている。
- ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見直しをもって表わしている。

② 思考・判断・表現の能力

- ・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成をくふうし、心豊かに表現する構想を練っている。

③ 主体的に学習に取り組む態度

- ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。

【評価の方法】

① 日常的な取組

日々の授業の取組状況です。1回1回の授業を大切に、楽しみながら意欲的に取り組むことができているかを、授業中の様子や制作カード・提出物〔計画表、振り返りカード、鑑賞カード〕で評価します。用具の用意〔持ち物確認〕や、作業の準備、片付けの仕方なども評価の対象になります。

② 作品制作の取組

構想〔アイデアスケッチ〕の段階、制作段階、完成後の互いの作品鑑賞など様々な段階に応じた取り組みを評価します。指示された方法で作品を提出し、教師のチェックを受けないと成績に加算されませんので、十分に注意してください。作品に名前がついていないときなども、成績に加算されないので注意してください。

No.	評価の観点 評価資料と 評価の把握の手だて	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		1	〔授業の取り組み〕 準備・片付け、持ち物確認、授業の取組内容、学習全般への意欲	△
		皆さんの日々の授業の活動で示す様子（取り組む内容、行動、発言など）を毎時間観察記録しています。1時間の中で全員の活動を記録することは難しいので、「積極的に活動している」「必要な用具を準備していない」など、特徴的なことを観察しています。		
2	〔作品〕 アイデアスケッチ、途中経過、完成作品	◎	◎	○
		活動を通して制作している作品を見ます。評価するに当たり、技術面の出来映えのよさだけでなく、途中段階での工夫や発想のユニークさなども参考にしています。作品は日々の授業の積み重ねですので、最後まで丁寧に仕上げるのが大切です。予告して途中課題を評価することもあります。		
3	〔感想〕 レポート、作品の感想など	○	◎	◎
		完成後のまとめや感想などを書いてもらいます。必要に応じてそのつど書き込んできたか、学習のまとめがしっかりとできているかを見ます。文章で自分の思いを表すので、文字の丁寧さや内容の充実度は主体的に学習に取り組む態度の観点、自己の表現に対する考え方やまとめ方の工夫は、鑑賞の能力の観点で読みとることができます。		
5	鑑賞	○	◎	○
		鑑賞の時間や作品制作、発表での感想、教科書からの出題で、個々の表現の違いに興味・関心をもって、意欲的に美術作品に触れているかを見ます。		
◎○△については、それぞれの観点にかかわる重み付けをあらわしています。				

4. 年間の授業計画 ※題材は、生徒の実態や制作の流れによっては変更する場合があります。

学期	題材名 領域	学習のねらい	学習内容 材料用具技法など
1	美術って何だろう	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・身近なものに目を向け、その中から美しさを見付け出していく基本姿勢を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図画工作と美術の関連と違い ・授業の取組や基本的な約束の確認
	もじもじテクニック	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前をカッコよく書く。 ・レタリングへの関心を高め、基礎を学ぶ。 ・デザインにおけるレタリングの意味や用途について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レタリングの基礎（明朝体で自分の名前を書く。） ・身近にあるデザインされた文字を鑑賞し、形や色彩から受ける印象やその違いについて考える。
	屏風、美の仕掛け	<ul style="list-style-type: none"> ・構図、余白、折りによる空間や奥行の表現などに注目しその効果を捉える。 ・屏風の表現のよさや美しさ、作者の意図と工夫、美術文化について考え、鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・風神雷神の共通点と相違点を考えることを通して、作品のよさを味わい、作者の意図と工夫、美術文化について考える。
	美しい構成と装飾	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な色の性質・デザインの基礎となる構成美の要素を学び、自然物を美しく構成する。 ・色の性質・感情を理解しよう。 ・アクリル絵の具の特性を知り美しく塗る技術を習得しよう。 ・身近な物の形や色の特徴をとらえ、配置や配色の効果を生かした構成を構想する。 ・形の表し方、配色を工夫し、制作の手順を考えて表現する。 ・作品の特徴や美しさを味わい、作者の意図を感じ取ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や条件を基に、自然物の形や色彩の特徴の美しさから主題を生み出す。 ・スケッチなどにより形や色彩の特徴を捉え、単純化や強調をするなどして構成を考える。 ・効果を考えながら彩色をする。 ・互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について話し合う。

	美術館へ行こう [夏休みの宿題]	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞を通して作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、作品の見方や味わい方を学ぶ。 美術館など文化施設を利用した鑑賞の方法とマナーを理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術鑑賞のマナーなどの基礎を学ぶ。 作品との対話の仕方（心情、意図、多様な表現など） 作者の生きざまや時代背景にも目を向ける。
2	植物の生命力を感じてみよう	<ul style="list-style-type: none"> 感じ取った形や色彩の特徴、植物の持つ生命力を基に表わしたいことを見つけ、豊かに表現する構想力と表わしたいことに応じて表現を工夫する姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物を観察し、生命力を感じ取る。 意図に応じて描画材料を選び採食する。
	暮らしに息づく土の造形	<ul style="list-style-type: none"> 焼き物の材料、形や色彩などに着目し温かさなどをとらえ、加工方法を工夫して見通しをもって表わす。 焼き物の特性や美しさ、使う場面や使う人の気持ちをもとに、使い安さなどの工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 焼き物のよさや使いやすさなどを生かして作ることに関心を持ち、意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 使う目的や機能、美しさなどから形を考える。 土の特性を生かしながら、つくりたいものに合った技法で制作する。 制作順序や時間配分の計画を練る。 道具を選び手順よく制作する。
3	ぬくもりスプーンを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> スプーン制作や鑑賞を通じて、生活を美しく心豊かにする木の魅力に気づく 用と美のバランスを考え、材料をいかした工芸の良さを味わう。 立体物から、意図した形を正確に削り出す過程を通して、彫刻の基礎を学ぶ。 正しい用具の使い方を学び、身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 使いやすさを意識しながらも、自分らしい独創的なデザインの工夫。 電動糸のこの安全な使い方 彫刻刀による立体的な表現の工夫 やすりとクルミ油による美しい仕上げをする。